

第4学年 道徳学習指導案

第4学年2組 26名
指導者 今井 彩

- 1 主題名 正しいことは思い切って 1-(4)正しいと思うことは、勇気をもって行う。
- 2 資料名 「あと、ひと言」
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

勇気の本質は、自分が正しいと判断したことを毅然として行うことである。また、正しくないことは行わない心の強さである。4年生になり、正しいことや正しくないことについての判断力も高まっており、自分の行為の善悪についても把握できるようになってきている。しかし、正しいことだと分かっているけれども、自分の周りの条件や利害関係、様々な誘惑に左右されてしまい、分かっているけれども行動に移せなかったり、自分の弱さに負けてついやってしまったということが生活の中ではよく起こる。そこで、正しいと判断したことは他人に対しても貫き通す心の強さを育てる必要がある。

(2) 児童の実態について

全体的に元気が良く、休み時間は友達同士で外で元気に遊ぶ児童が多い。中学年になり、仲間意識が高まってきた。目標に向かって集団やグループで活動する中では、友達と協力する力や自主性も育ち始めている。しかし、生活の中では、自分の思いや都合を優先したり、自分には関係ないことだと逃げたりする児童が見られる。また、集団の中で力関係が存在し、主張の強い児童に流されて正しい行動ができなかったり、いやだと思っただけでもはっきり断れなかったりする姿が見られる。仲の良い子に対しても、間違っていることは間違っていると伝え、お互いに高め合っていけることがよい人間関係だと考える。正しい行動を勇気をもって行うことができる態度を身に付け、よりよい人間関係を築いていく力を育てていきたい。

(3) 資料について

児童の生活の中でよくある内容の題材であり、児童の考えを反映しやすい資料である。この資料では価値について二段階の考えさせる場面がある。一つ目は、主人公と一緒に遊んでいた友達にぼうけんごっこをしないかと誘われ、悩みながらも断った場面。二つ目は、断るだけでなく、みんなに「やめようよ。」と言えなかったことにより、友達が大きなけがをしたことを知る場面である。一つ目の場面では、断ったのに2人に言われた言葉により、心の中で葛藤があったことをつかませ、正しいことを貫く勇気の難しさに共感させたい。二つ目の場面では、お母さんが言った少し足りなかったことを考えることを通して、自分がやらないだけでなく、他人に対しても正しいことを貫き通す勇気というより高い価値に気付かせていきたい。

4 研究主題との関連（指導法の工夫）

①資料の工夫

児童の生活の中でよくある内容の題材を選ぶことで、児童が日常生活を振り返り、自分の考えを反映しやすいようにする。

②ペープサートによる場面提示と動作化による場面体験

ペープサートで場面を提示することで、場面理解をしやすくする。実際に動作化で葛藤の場面や断ることができた勇気について体験することで、より主人公の立場に立って考えられるようにする。その考えをもとに、自分の生活に置き換えて、日頃の行動を振り返らせる。

③心のノートの活用

心のノートを活用し、自分自身の勇気について見つめる時間を設ける。また、以前の振り返りと比較することで、自分の成長や考え方の変化に気付けるようにする。

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

よいことや正しいと判断したことは勇気をもって行おうとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動（主な発問○と予想される反応・）	◇指導上の留意点◎評価
導入	<p>1 普段みんながしている遊びを伝え合う。</p> <p>○みなさんは休み時間や放課後にどんな遊びをしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おにごっこ ・サッカー… 	<p>◇リラックスした雰囲気をつくる。</p>
展開前段	<p>2 資料「あと、ひと言」を聞き、ぼくの行動や気持ちについて考える。</p> <p>(1)資料の前半を聞き、断ったときの気持ちを考える。</p> <p>○「ぼくは、やっぱりやめとく。」と友だちからの誘いを断ったとき、ぼくは心の中でどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危ないからやりたくないな。 ・断ると、明日から遊んでもらえなくなるかな。 ・家の人に怒られるからやりたくない。 ・やってみたいな。 <p>(2)資料の後半を聞き、友達がけがをしたと聞いたときの気持ちを考える。</p> <p>○お母さんから、友だちが大けがをしたと聞いたとき、ぼくはどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがはひどいのかな、心配だな。 ・自分はやらなくてよかった。 ・あの時止めてくれればよかったな。 <p>(3)「ぼくは、やっぱりやめとく。」のあとに続くひと言を考える。</p> <p>◎お母さんが言った「少し足りなかったこと」とはどんなことでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2人もやめようよ。」 ・「けがをするからだめだよ。」 ・「危ないからちがう遊びをしようよ。」 	<p>◇児童に分かりやすい提示の仕方を工夫する。</p> <p>◇実際の場面を動作化させる。</p> <p>◇小さい声になったが、勇気をもった行動ができたことに気付かせる。</p> <p>◇断ってよかったという気持ちから、本当にそれだけでよかったのかという気持ちを感じ取らせる。</p> <p>◇お母さんの言葉を2つに分けて提示する。</p> <p>◇自分が止めれば、事故が起こらなかったことに気付かせ、ワークシートに書かせる。</p> <p>◎自分がやらないだけではなく、正しいと判断したことを貫き通す勇気に気付くことができたか。</p>
展開後段	<p>3 自分の生活をふりかえる。</p> <p>○いままでどれくらい勇気が出せていましたか。これからどんな時に勇気を出したいですか。</p>	<p>◇前回記入した心のノート p23 と比べながらワークシートに記入させる。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇正しいと判断したことを勇気をもって伝えることが本当のよい友達関係だということを話す。</p>

あと、ひと言

黒田

今度は、ぼうけん
ごっこをしようよ。

中山

うん、おもしろそうだ
な。木下君もやるよな。

木下

ぼくは、やっぱりやめとく。

- ・あぶないから、やりたくない。
- ・ことわると明日から遊んでもらえなくなるかな。
- ・やってみたいな。
- ・家の人におこられる。…

ことわる ゆう気

…大げがをしたんですって。

大じようぶかな。心配だな。

- ・やらなくてよかった。
- ・やめさせればよかった。…

えらかったけど、でも、少し足りなかったわね。

二人ともやめようよ。

- ・けがをするから、だめだよ。
- ・ちがうことをして遊ぼうよ。…

やめさせる ゆう気

【研究協議会】

(1) 自評

自分たちに身近な資料を選択することで、児童も自分たちの身に置き換えやすく、活発に意見が出された。児童に身近な資料を選択したことは正解だったと思う。ワークシートでは、やってはいけないことは断る勇気を出したいということ、友達がやっていたらやめさせる勇気を出したいということがたくさん書かれていた。児童は、勇気の必要性をきちんと理解できているように感じられた。今後、学校生活でどのように実践として生かされていくかを見ていきたい。

(2) 協議

<視点1> 日常生活を振り返る手立てとして、心のノートを活用することが有効であったか。

- ・自分自身を振り返る上で有効であったと言えるが、「活用する」という意味ではまだそこまで到達していないと考えられる。
- ・「活用」していくためには、継続して心のノートを取り入れた学習を行っていく必要がある。

<視点2> 自分がやらないという小さな勇気から、間違っていることは、間違っていると伝える高い価値に気づかせるために、有効な発問やワークシートであったか。

- ・発問が段階的に分けられていて答えやすく、また、ワークシートにも意見がよく書けている児童が多かった。
- ・普段、発表しない子が参加していて、効果的だった。
- ・発問やせりふを出すタイミングが良かった。ただ、「どれくらいの勇気を出せていたか。」という記述が難しい。
- ・子どもの発表後の教師による評価、言葉がけがよかった。価値目標に導きたいという意図が伝わってきた。

(3) 講師講評

講師 東京家政学院大学 教授 長谷徹先生

<授業について>

- ・児童の意見がとてもよく出ていた。
- ・終末の「自分が小学生の時に遊具で危険な遊びをしようとしたのを友達に止められて、けがをせずに済んだ。」という説話は、資料と似すぎた話だった。もう少し違う内容のもので、「自分が勇気を出してよかった。」という内容の方がよかった。
- ・動作化をして気持ちを考えさせたが、役割演技をして、資料にはないセリフを言わせる活動もある。動作化よりもさらに踏み込んで考えることができる。先生が相手役をやることで、より児童の心の動きを追うことができる。
- ・資料を分断することは通常はやらない。なぜなら、児童が話し合いの後に結局どうなったのだろうと結果を気にしてしまうからである。今回のように結果を気にしないで考えられる場面で分断するのは特に問題はない。
- ・今回のねらいは態度を育てることであったが、心情を育てる展開なら、帰り道の気持ちを考えさせてもよかった。なぜ勇気を出せないのか原因を探っていくことが心情と意欲を育てていく。
- ・終末は教師が児童の変容を期待しすぎてしまった。すぐに変容させようとするのではなく、一步踏み出すことができる程度でよかった。

<講義>

- ・ねらいにおける「～な態度を育てる。」の「態度」とは、すでにその行動ができるようになっている状態、自然に意識せずできるようになっている状態のことであり、実践意欲がさらに進んだものである。

- ・導入の機能は「①ねらいとする価値項目に気付かせる②資料への導入③雰囲気づくり」である。1つの機能の場合もあるし、複数が機能する場合もある。資料や児童の実態に応じて考えたい。
- ・道徳的価値は、まず「その価値に気づき・理解する段階」「ねらいと自分との関わりを考える段階」「自分の課題を見つめる段階」「一歩踏み出す（希望をもつ、行為に移す）段階」をたどる。
- ・心のノートは今年度からweb上からダウンロードする形となった。道徳の時間以外でも活用できるとよいという発想で始まった心のノートは、きれいな言葉や日本語が使われている。今後も引き続き活用できるとよい。
- ・中学年の内容には、2－（3）友達と互いに理解し、信頼し、助け合うとある。平成元年以前は、相手が間違った時には、「忠告する」と記されていた。それが「理解」へと変わった。今回のねらいは「忠告する」にも関連している。中学年は、発達段階から考えて、忠告するという力を身に付けるための適切な時期である。

【成果と課題】

（1）成果

- ・道徳を通じて気付いたことを実践できるよう、問題に直面した時に、自分の考えや思いを伝えるように指導を繰り返したことにより、「自分の思いや考えを述べようとする児童」「相手の思いや考えを受け止めようとする児童」が増え、道徳以外の場面にも広がりを見せている。
- ・子どもたち同士で話し合う場面をたくさん設定することで、日頃の友達関係のあり方やトラブルの解決方法などについて、「学級全体で話し合いをしたい。」という声が子どもから自主的に出てくるようになった。
- ・日常生活に出てくる場面に近い状況の資料を選択したことで、自分たちに置き換えて考えやすくなり、意見が活発に出た。
- ・役割演技と動作化の違いや様々な資料の提示の仕方を教師が理解し、ねらいに沿った発問を吟味することで、児童にねらいについてより深く考えさせることができた。

（2）課題

- ・正しいと思っていることを伝えることができるが、それを周りの友達の色目を気にするために素直に受け入れられない児童が多い。そうした児童に対し、どのような個別支援が有効か検討していく必要がある。
- ・すぐに行為の変容をもとめるのではなく、日々の生活の中で問題に直面した時に、授業の内容をふりかえらせる等、継続して指導していく必要がある。